

資料編2

1	基礎調査・地域福祉ワークショップの概要とまとめ.....	142
	I 基礎調査・地域福祉ワークショップの概要.....	142
	II 地域福祉ワークショップの現状課題のまとめ.....	145
2	第1次八女市地域福祉計画・地域福祉活動計画のふりかえり（詳細）....	173
3	八女市地域福祉計画策定委員会要綱.....	183
4	八女市社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会.....	184
5	八女市地域福祉策定委員会・地域福祉活動計画策定委員会委員名簿....	186
6	計画策定経過.....	187
7	用語解説.....	190
8	参考資料.....	200



1 基礎調査・地域福祉ワークショップの概要とまとめ

I 基礎調査・地域福祉ワークショップの概要

住民アンケート

- 調査地域 : 八女市全域
調査対象者 : 八女市在住の20歳以上2,000名を無作為抽出
調査期間 : 平成28年11月10日～11月24日
調査方法 : 郵送による配布・回収

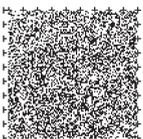
配布数 (A)	回収票数 (B)	回収率 $\frac{(B)}{(A)}$
2,000	852	42.6%

地域懇談会

- 開催地域 : ・福島地域<<参加者29名>> ・長峰地域<<参加者44名>>
・上妻地域<<参加者27名>> ・三河地域<<参加者29名>>
・八幡地域<<参加者29名>> ・川崎地域<<参加者31名>>
・忠見地域<<参加者17名>> ・岡山地域<<参加者51名>>
・黒木地域<<参加者36名>> ・豊岡地域<<参加者30名>>
・串毛地域<<参加者22名>> ・木屋地域<<参加者27名>>
・笠原地域<<参加者19名>> ・大淵地域<<参加者25名>>
・光友地域<<参加者22名>> ・北山地域<<参加者38名>>
・白木地域<<参加者20名>> ・辺春地域<<参加者33名>>
・上陽地域<<参加者27名>> ・矢部地域<<参加者40名>>
・星野地域<<参加者38名>>

開催期間 : 平成28年11月～平成29年2月

方法 : 「地域の行事や活動の様子や課題」、「近所づきあいの様子や課題」、「福祉サービスにつながるために」、「福祉活動の充実のために」について、5～10名程度のグループによる意見交換。



分野別課題調査

- 調査対象 : 市内福祉サービス事業所などに所属する福祉や介護などの専門職
- ・高齢者福祉・介護分野での介護支援専門員（ケアマネージャー）など
《34 か所に配布、77 名より回答》
 - ・児童福祉・子育て支援分野での保育士、学童保育指導員など
《36 か所に配布、112 名より回答》
 - ・しょうがい者福祉分野での相談支援員など
《11 か所に配布、15 名より回答》
 - ・生活困窮者支援分野での生活支援員など
《3 か所に配布、22 名より回答》
- 調査期間 : 平成 29 年 1 月
- 調査方法 : 自由記述式調査票の配布・回収

関係団体ヒアリング

- 調査対象 : 住民が構成メンバーになっている地域活動や福祉活動を行っている団体

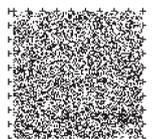
ヒアリングによる調査 : 平成 28 年 11 月～平成 29 年 1 月

- ・八女市民生委員児童委員連絡協議会《15 名参加》
- ・八女市母子寡婦福祉会《14 名参加》
- ・ファミリーサポート会員《18 名参加》
- ・八女市在宅介護者の会《6 名参加》
- ・八女日本語教室《7 名参加》
- ・地域づくり協力隊《6 名参加》
- ・ボランティア連絡協議会（上陽）《4 名参加》
- ・サロン支援者の会《8 名参加》
- ・八女市老人クラブ連合会《20 名参加》
- ・子育てネットワークやめ《6 名参加》
- ・しょうがい当事者の家族会：えん（児童対象）《4 名参加》
- ・八女市身体障害者福祉協会《10 名参加》
- ・しょうがい当事者の家族会：のぞみ会（精神）《20 名参加》
- ・しょうがい当事者の家族会：あごら（幼児対象）《7 名参加》

調査方法 : 団体ごとのグループインタビュー

記述式調査票の配布回収による調査 : 平成 28 年 1 月

- ・視覚障害者協会、点訳サークル「わかば会」
- ・点訳サークル「茶の実会」
- ・音訳ボランティア「ふきのとう」
- ・星野村音訳ボランティア「ゆうあい」
- ・八女要約筆記の会「あかり」
- ・八女聴覚しょうがい者協会
- ・そよかぜボランティアの会
- ・こども食堂たちばな（立花町更生保護女性会）
- ・八女市青少年育成市民の会
- ・八女ダンボ
- ・NPO 法人八女 SUN・SUN
- ・一人暮らし高齢者の会
- ・八女保護区保護司会八女支部
- ・星野村地域サロンボランティアの会
- ・チャイルドサポートネットワーク子どもの学習支援と食堂



地域福祉ワークショップ

住民アンケートや地域懇談会、分野別課題調査、関係団体ヒアリングの基礎調査を踏まえ、ワークショップ形式にて課題整理から課題解決のための方策及びその役割分担案を協議しました。

第1回の課題整理では、高齢、しょうがい、児童・子育て、生活困窮その他という分野に分かれ、基礎調査から導き出された各分野の意見に関するカードを活用し、カテゴリ分けすることで、それらの意見から導きだせる課題や参加者が抱えている課題意識を明らかにしました。

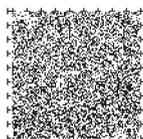
そのうえで、第2回以降は高齢・しょうがい・児童・生活困窮等という分野を横断的にとらえ、「情報提供」「地域での支えあい」「社会参加」「公的支援」の各グループに分かれ、取り組みの内容や役割分担案等を協議しました。各グループ独自の視点で新たな支えあいの方策が提案されました。

主な参加者：

民生委員児童委員、まちづくり団体役員、子育てや高齢、しょうがい、外国人支援等の団体会員、各分野相談機関相談員、ワーキングチーム員、社協職員等

開催日程：

日時	ワークショップ内容		参加人数
第1回 平成29年 5月24日	現状課題の整理 高齢、しょうがい、児童・子育て、生活困窮その他という分野に分かれ、基礎調査の結果から現状課題を整理しました。		36名
第2回 平成29年 6月14日	現状課題の確認	第1回の整理で各分野共通の課題を「情報提供」、「地域での支えあい」、「社会参加」、「公的支援」ととらえ、この課題ごとに部会をつくり、基礎調査の結果を再整理し、意見交換、現状課題を確認しました。	35名
第3回 平成29年 6月28日	方策案の検討	課題別部会ごとに、各メンバーが現状課題の改善に向けた具体的な方策案を持ち寄り、意見交換を行いながら、方策案を検討しました。	34名
第4回 平成29年 7月26日	取り組みの検討 役割分担の検討	課題別部会に、計画に盛り込むべき取り組みや役割分担について、意見交換を行いながら検討しました。	34名



Ⅱ 地域福祉ワークショップでの現状課題のまとめ

基本目標 1 相談しやすい雰囲気づくり

(1) 支援の情報をわかりやすく伝える

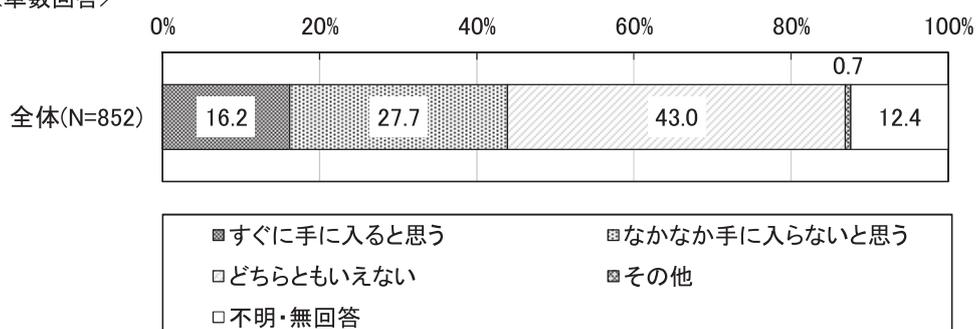
福祉に関する支援の情報を必要としている人たちに伝えていくための工夫が大切だ

住民アンケート

福祉に関する情報が必要な時、すぐにその情報が手に入るかについてたずねたところ、「どちらともいえない」が43.0%で最も高くなりました。

問 福祉に関する情報が必要な時、すぐにその情報が手に入りますか

<単数回答>



地域福祉ワークショップ

※多くのご意見のうちから代表的なものを掲載しています。

【高齢者福祉・介護分野】

「介護保険制度や老人ホームの情報などよくわからないことが多いので行政からそういう情報をもっと教えてほしい」

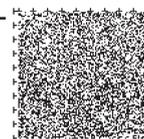
【児童福祉・子育て支援分野】

「やめっこ未来館でやっているようなサポートを知らない人が結構多い。子育て世代への情報提供を工夫することで、こられていないお母さんがこられると思う」

【しょうがい者福祉分野】

「自分ではそういうサービスがあることも知らなかったなので、もう少し出生届の時、健診の時などいろいろなタイミングで、スムーズに情報が手に入るようにしてほしいと思った」

情報の提供が
求められている



【児童福祉・子育て支援分野】

「どのようなサービスがあるのかをもっと発信するといいと思う。自分で調べればいい話ではあるが、サービスがあること自体知らない人がいるのではないだろうか」

【しょうがい者福祉分野】

「社会資源の情報不足。何をどこに相談したらいいのかわからない、本当に必要な人がサービスの受け方を知らないこともあると思う」

【生活困窮者支援分野】

「生活困窮者を支援する様々な制度を周知することが大切である」



制度の周知

【高齢者福祉・介護分野】

「行政のサービスがあっても情報として知らないと活用できない。行政からもわかりやすい説明が必要だ」

「基本的に市役所の窓口に行かないと詳しい話や手続きができないことが課題。市職員も地域に出向くべきだと思う」



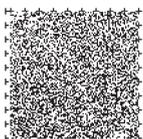
**わかりやすい
行政サービス**

【外国人支援分野】

「外国人が地域で生活するとき大変なのは、生活習慣。あちこちで問題になっているのはごみ出しのことだ。分別の説明書を見ても、それが理解しにくく、伝わらないのだと思う。多言語で意味がわかるようにすることも必要だ」



**外国人への
支援（情報
発信）**



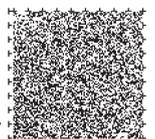
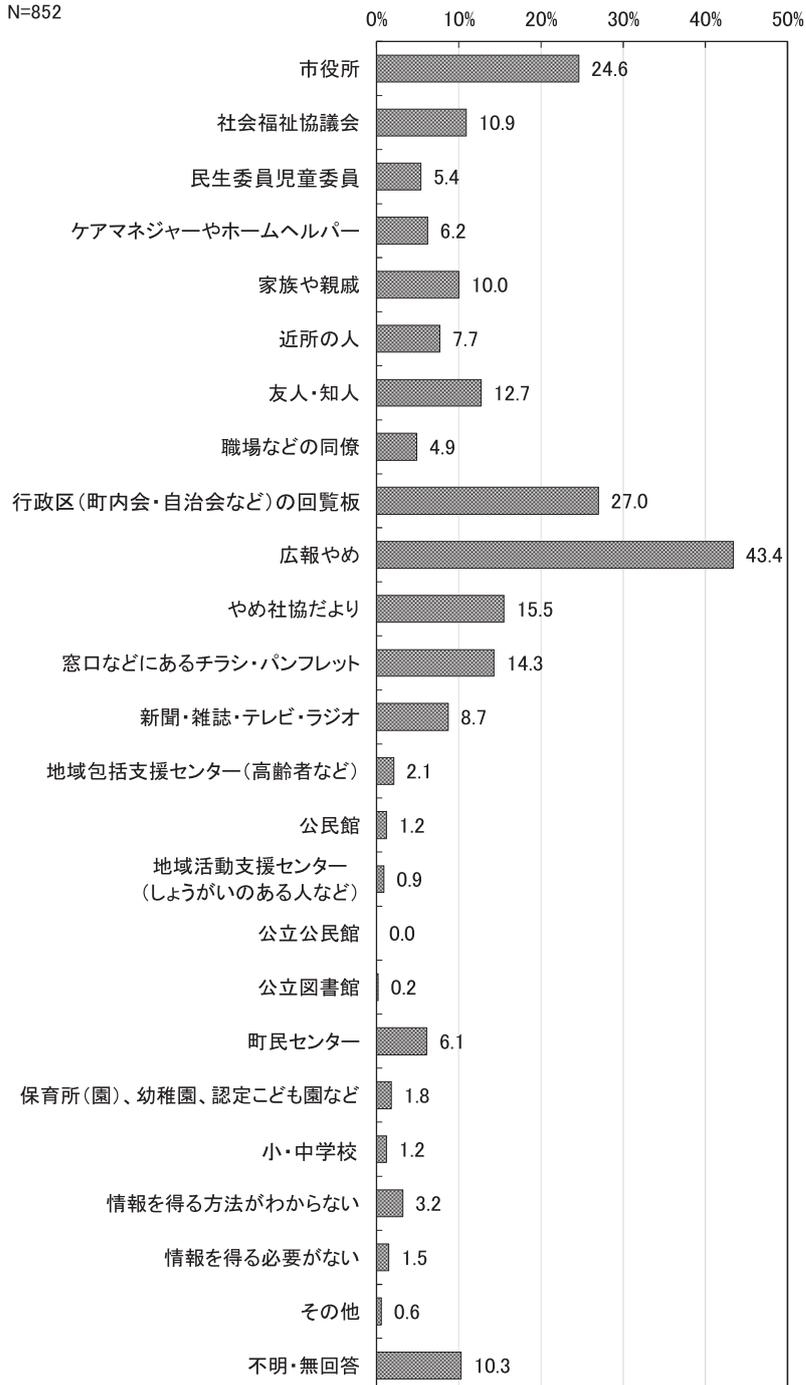
市役所が発信する福祉に関する支援情報は、住民の重要な情報源となっている

住民アンケート

福祉サービスに関する情報源についてたずねたところ、「広報やめ」が43.4%で最も高くなりました。

問 あなたは、現在、「福祉サービス」に関する情報を主にどこから（どのようにして）入手していますか

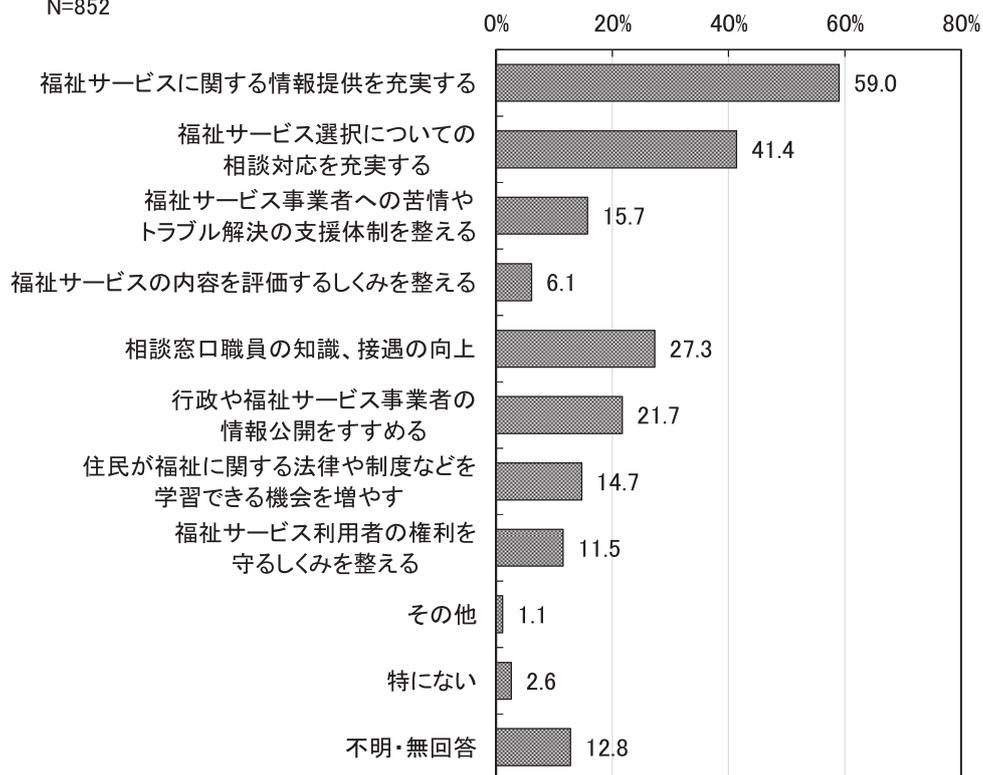
<複数回答>
N=852



福祉サービス利用者が、自分に最適な福祉サービスを選び、安心して利用するために、市役所が取り組むことについてたずねたところ、「福祉サービスに関する情報提供を充実する」が59.0%で最も高くなりました。

問 福祉サービス利用者が、自分に最適な福祉サービスを選び、安心して利用するため、市役所ではどのようなことに取り組む必要があると思いますか

〈複数回答〉
N=852



(2) 身近で気軽な相談支援をすすめる

困り事や悩みごとについて、身近で気軽に相談できる場や機会が求められている

地域福祉ワークショップ

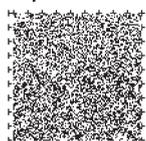
【児童福祉・子育て支援分野】

「子育ての情報が得られなかったり、悩んでいることをどこに相談したらいいかわからなかったり、足が運べなかったりしているのではと感じている」

【生活困窮者支援分野】

「地域とのつながりが疎遠になり、誰にどのように相談したらよいかかわからず、状況が悪化していることもあるようだ」

どこに相談したらいいのかわからない



【分野共通】

「住民の多くが、どのような福祉サービスがあるのか、どう手続きをすればよいのか、どこに相談すればいいのかを『知らない』ために、『つながらない』ことになっているのではないだろうか」

【児童福祉・子育て支援分野】

「子育ての孤立化解消のため、子育てしている人たちが気軽に集まりやすい場所などがあればいいと思う。情報交換が出来る場が大事だと思う」

「幼稚園、保育園に入園する前の子どもや保護者は周りの人との関わりが特に少なく、悩みを相談する人がなかなかいないと思う。知り合いがいない人でも一人で参加しやすい場をつくるのが大事だ」

子育て世代
の交流

(3) 相談支援の専門性や利便性を向上させる

必要な支援につないでいくための相談支援を工夫していくことが大事だ

地域福祉ワークショップ

【高齢者福祉・介護分野】

「高齢者が介護をしているケースでは、介護者本人にサービスが必要と思われても、夫や妻を介護しなければならないとの責任感から、サービス利用につながらないこともあると思う」

【児童福祉・子育て支援分野】

「すでに困り感のある人はサービスにもつながりやすいと思うが、本当に支援の必要な人は自ら発信できなかったり、その余裕すらない人も多いと思う」

【生活困窮者支援分野】

「支援を受けることに抵抗がある。何とか大丈夫と遠慮してぎりぎりまで我慢される人が多いのではないだろうか」

必要なサービス利用
につながらない実状

【分野共通】

「ひきこもりや拒否をされる人に対する支援をどうしたらよいか。支援したくてもできない場合がある」

「気をつかって声かけしても、『いらん世話』と言われるとどうにもできない」

閉じこもっている人への
対応

【しょうがい者福祉分野】

「親亡き後のことを心配し、悩んでおられることが多いように思う」「精神しょうがいの子どもを親が隠すことなどは、私たちが知らないだけで、今もあると思う」

しょうがいの
ある人や家
族への支援

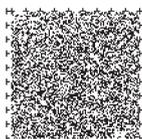
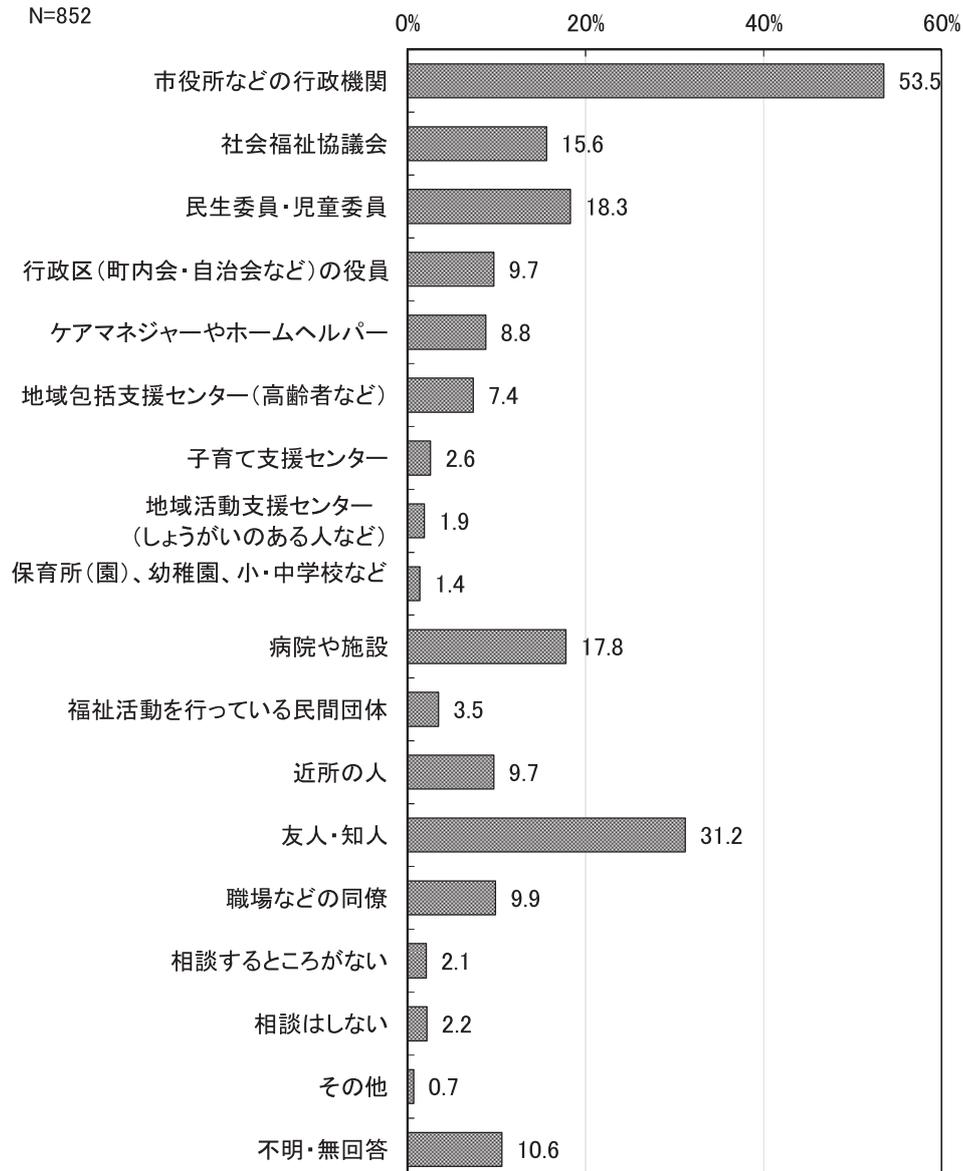
市役所などの行政機関は、福祉に関する支援の相談先として期待度が高い

住民アンケート

生活上の困り事を抱えたときの家族以外の相談場所や相談相手についてたずねたところ、「市役所などの行政機関」が53.5%で最も高くなりました。

問 あなた自身やご家族が、生活上の困り事を抱えた時、家族以外で、どこ（誰）に相談しますか

〈複数回答〉
N=852



基本目標 2 連携した支援ができる体制づくり

(1) 福祉サービスの量や質の充実を図る

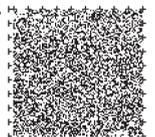
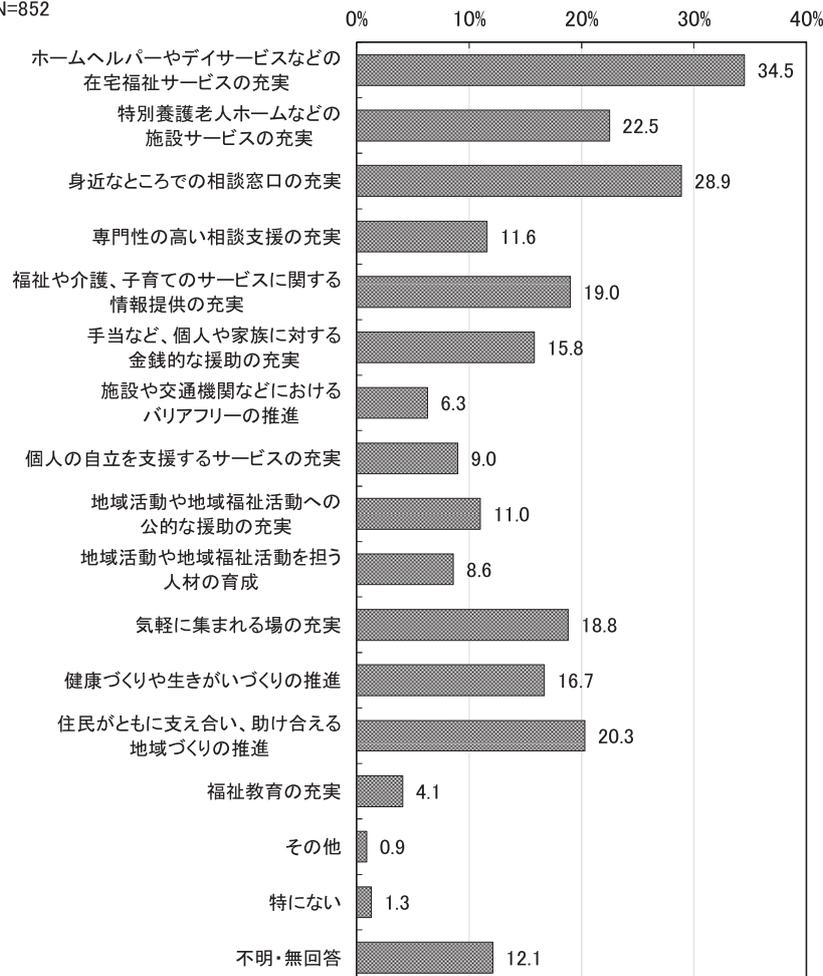
在宅福祉サービスの充実が求められている

住民アンケート

住み慣れた地域で、安心して暮らしていくための大切な福祉のあり方についてたずねたところ、「ホームヘルパーやデイサービスなどの在宅福祉サービスの充実」が34.5%で最も高くなりました。

問 住民が住み慣れた地域で、安心して暮らしていくためには、どのような福祉のあり方が大切だと思いますか

〈複数回答〉
N=852



地域福祉ワークショップ

【高齢者福祉・介護分野】

「ほとんどの人が就業しながら介護を担い、時間的、体力的な負担が大きい。別居の場合は熱心な家族ほど、自身の時間を持つのが難しい」
「親の介護を行うため、仕事を続けられなくなり、仕事を辞めたくなくても（収入が減ることを不安に思っても）、介護のため辞めざるを得ない人もいる」
「家庭内に若い人がいても、高齢者の面倒を見ようと言う人は少ない。高齢者も自分の子どもにも頼みづらいと言われる」
「施設に入れるか、在宅でみるか、どちらにするかは家族の問題だが、自分は家でみたい」

介護に求められること

子育て支援や家族介護者の負担軽減のための支援の充実に図っていくことが大事だ

地域福祉ワークショップ

【児童福祉・子育て支援分野】

「親が働きに出ている場合は子どもが病気にかかった際、代わりに子どもの看病をする人がいないこともある。誰かにお願いすることが必要」
「母親が体調を崩したときなど、核家族だと本当に困っていると思う」
「子どもを少し預けたいときに気軽に預けることが出来る場所が必要」

【しょうがい者福祉分野】

「八女市は療育環境があまり整っていないと思う」
「子育てで、ほかの親御さんにつながれるような場であったり、悩んでいる親子に向けた場をつくっていただきたい」
「閉じこもってしまっているお母さんは、親の会など、自主的にやっているようなところには、よほど誘われたりしない限り行かないと思う。子どもたちに関わる支援機関が、引っ張ってくれたほうが行こうという気持ちになると思う」

安心して子育てするために必要なこと

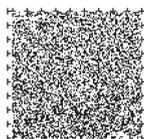
特に中山間地域では利便性の高い外出支援が求められている

地域福祉ワークショップ

【分野共通】

「公共交通機関の利便性が悪く、交通弱者になっている人、なりうる人が多い地域では車がないと生活しにくい。地域活動の面においても、住民の高齢化と共に、大きな課題と感じている」
「今、高齢者の車の事故が多くて免許証を返納する人が多くいるが、車がないとどこにも行けないのが実情」

外出支援としての交通のあり方



「高齢者一人暮らしなどが増え、買い物や通院の不便さをよく聞く。乗り合いタクシーだけでは将来が不安という声がある」

「乗り合いタクシーは、利用者に大変喜ばれていると思うが、エリアの乗り入れができないことや、休日の運行がないことで不満のある人もいる。土、日の行事に参加できない。エリアが広いので、乗合タクシーに予約しても他の地域に行っていると時間がかかる」

(2) 連携しながら相談支援をすすめる

家族が複合的な問題を抱えていることが多く、丁寧な相談支援が大事になる

地域福祉ワークショップ

【生活困窮者支援分野】

「生活困窮者は複合的な課題を抱えていることが多く、それを支援していくためには、専門知識を持つ人が必要だし、相談者を受容し丁寧に対応していく姿勢も大事だ」

生活困窮の課題は複合的である

【生活困窮者支援分野】

「高齢者に限らず、全体的に経済的な問題による生活環境の悪化が問題だと思う。病院の受診もお金がないからと受診せず、悪化するまで放置することがある」

「一人親の世帯の就業率は高いが全体的に所得が低い。仕事を掛け持ちして生計を立てている家庭も多く、子どもと向き合う時間が必要でもその時間が十分に取れない様子だ」

経済的な不安が引き金になる

(3) 連携した支援体制の充実を図る

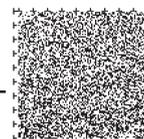
多くの福祉課題を抱える世帯に対する関係機関が連携した丁寧な支援が大事だ

地域福祉ワークショップ

【生活困窮者支援分野】

「一つの相談でもその家庭内には複合的な課題を抱えていることが多い。一つの相談対応と共に家庭内の他課題も積極的に把握し、必要であれば関係機関と迅速に連携をとり、支援していくことが大事だ」

一つの相談から複合的な支援へ



地域福祉ワークショップ

【生活困窮者支援分野】

「地域で取り残されていて孤立していると思う。誰にも言えない、言い出せないような環境もあると感じる。地域の民生委員やほかの組織との連携が重要であると思う」

孤立する人への支援

【生活困窮者支援分野】

「扶養者の収入がある間はいいが、年金収入のみになったり、扶養者が他界した後、その子どもはどうするのか。定職に就けないのには何らかの事情があり、それをどうやって支援していくかが大事である」
「支出と収入のバランスが取れていないケースも見受けられるため、適切な指導が必要。しかし、切羽詰まらないと理解してもらえない場合が多い」

経済的な課題と金銭管理

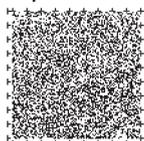
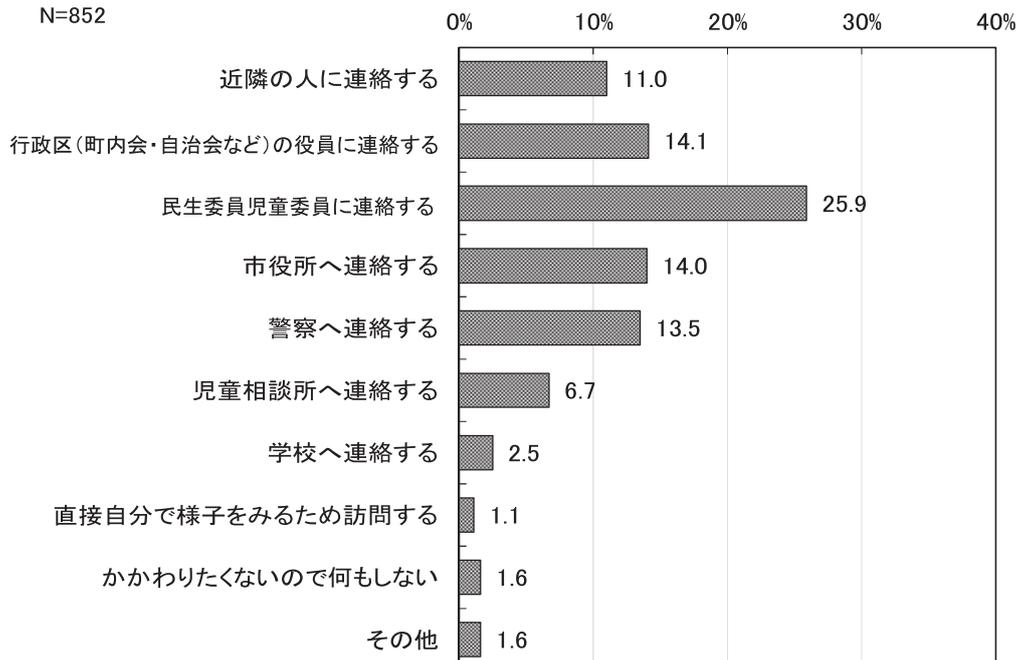
虐待の早期発見や防止していくための支援については皆が協力し合うことが大事だ

住民アンケート

虐待が発生していると思われたときの最初の対応についてたずねたところ、「民生委員児童委員に連絡する」が25.9%で最も高く、次いで「行政区（町内会・自治会など）の役員に連絡する」が14.1%、「市役所へ連絡する」が14.0%となりました。

問 もしあなたの周囲で、虐待が発生しているとあなた自身が思われたら、最初に対応しますか

<単数回答>
N=852



地域福祉ワークショップ

【高齢者福祉・介護分野】

「虐待までは無くても異変に気づいたら、関係機関に連絡するよう周知していくことが大事だ」

「肉体的にも精神的にも一人で担うことが難しいのが介護。うつやストレスなどを抱えがちになりやすい。虐待のことであっても気軽に相談出来る場があるといいと思う」

【児童福祉・子育て支援分野】

「少しでも虐待を疑われることがあった場合には、空振りとなっても構わないので通報してほしいと呼びかけを行えば、相談もできて未然に防げることもあると思う」

「児童虐待を防止していくためには、保護者がストレス発散やリフレッシュ出来る場所や機会の提供、ちょっとしたことでも相談出来る環境づくりが大切だ」

【しょうがい者福祉分野】

「しょうがいのある人への虐待を防止していくためには、日常の関わりの中で気になることがあれば連絡する体制づくりや地域での連携が大切だ」



複数の眼で
早期発見する
虐待の芽

